

すばる

白岡市立南中学校
校長室通信
平成27年4月13日

No.2

教室環境を整える

「赤ジャージは荒れる」これはある中学校でささやかれていた都市伝説（苦笑）。ジャージの色が学年ごとに違っていた学校での話なのだが、なぜか「赤ジャージ」の学年は落ち着きに欠ける傾向があったという。たぶん偶然なのだろうが、「赤」という色に原因があるのでは？と思わずにいられなかった。色には興奮感や沈静感を与える働きがあるという。人は一般に暖色系の彩度の高い色に興奮感、寒色系のやや彩度の低い色に沈静感を感じるそうだ。新聞の折り込み広告には、価格の数字には赤と黄の色が並ぶ。これは興奮色を使って購買意欲をかき立てる作戦だと聞いたことがある。

ある先生が教室環境を紺色で統一していたことを思い出す。確かになんとなく落ち着く感じだった。また、ある先生はピンク系を多用していたが、なんだかふわふわした印象だった。色だけではない。ある教室に授業にいったとき、圧迫感があるなあと思ったら、なんと「天井に、生徒の決意が貼られている。常に意識させよう」という意図なのだろうが、これは環境的にもってのほか。先輩の先生から指導されてはがすことになった。

教員になりたての頃、先輩から「教室の掲示物をしっかり」と指導された。きれいに作ればいいのだろうと思い、学級の組織図などを全部自分で作って貼った。なかなかきれいにできたと自己満足に浸っていたのだが、「あなたの教室はなんとなく冷たい気がする」と先輩に言われてしまった。「あなたの教室には子どもの姿がない」というのだ。他の教室を見て回ると、きれいとはいえないが、手作り感にあふれていて、そのうえ統一感があり、バランスのよい掲示物になっていた。これが「しっかり」の意味だったのだと気づかされた経験がある。

特別支援教育の研修会で、落ち着きに欠ける子どもには、教室で視線に入るものにも気を配る必要があると聞いた。黒板を見ているとき、前面に他のものがあると、注意がそちらに向いてしまうというのである。前面にロッカーなどがある場合には、カーテンなどで目隠しをした方がよいそうだ。ふだんの生活でも、たとえば給食後にストローの袋などが落ちているような教室は、落ち着きがない気がして、拾うだけでなく、掃除をしてから授業に入ったこともある。机がきちんと並んでいなかったり、掲示物がはがれていたりするのが、かなり気になるようにもなった。先生方はどうだろう。「教室」という「環境」を、今、ちょうど構築中だろうか。この教室を環境としてどういう気持ちで作っていくかは、けっこう大事なことのだと思っている。

